

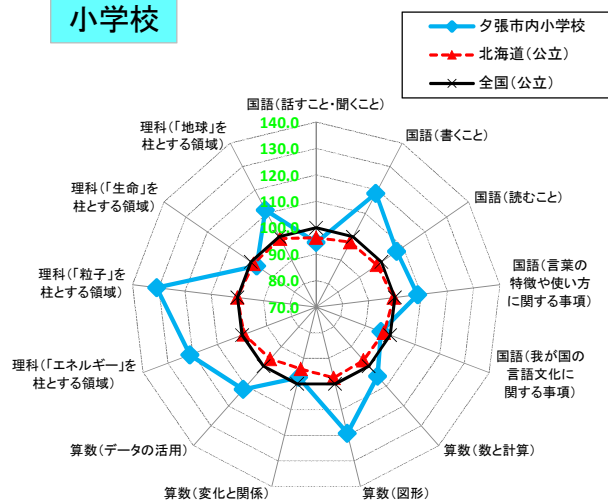
■夕張市内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:20人）（中学校数:1校、生徒数:22人）

【教科全体の状況】

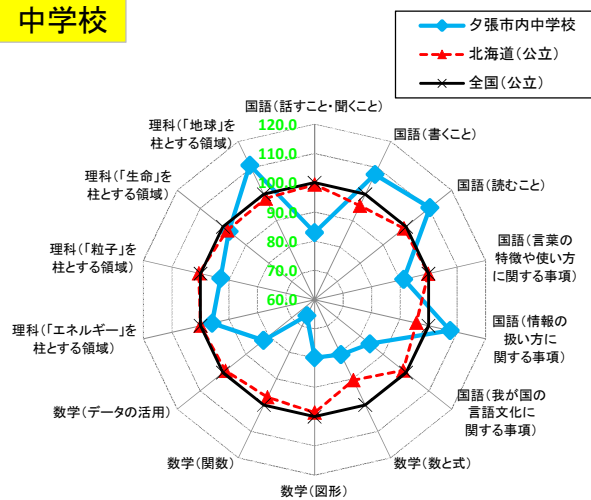
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものの（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	70	64
算数・数学	68	40
理科	71	49

小学校

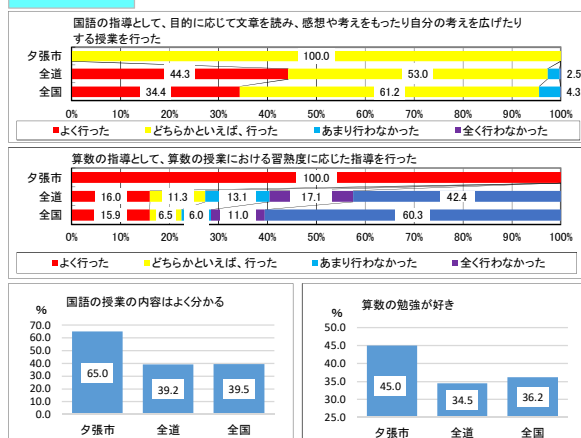


中学校

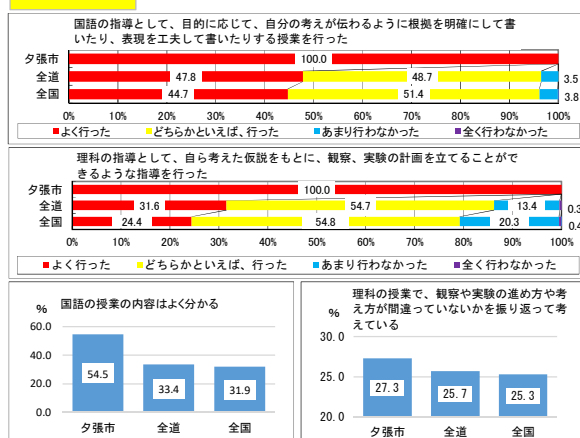


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の指導として、目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり自分の考えを広げたりする授業を行ったことにより、国語の授業の内容はよく分かると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

算数の指導として、算数の授業における習熟度に応じた指導を行ったことにより、算数の勉強が好きと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

国語の指導として、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫して書いたりする授業を行ったことにより、国語の授業の内容はよく分かると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

理科の指導として、自ら考えた仮説をもとに、観察、実験の計画を立てることができると指導を行ったことにより、理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【夕張市の学力向上策】

- ◎ 「ゆうぱりっこ、学び育成プラン」に基づく取組の充実と検証・改善
- ◎ 夕張市小中連携学力向上プロジェクト委員会による学力分析と改善方策の検討
- ◎ CSとの連携による家庭学習週間(ファミスタウィーク)の実施と学習習慣の改善
- ◎ 1人1台端末の効果的な活用を図るための教員の研修機会の充実

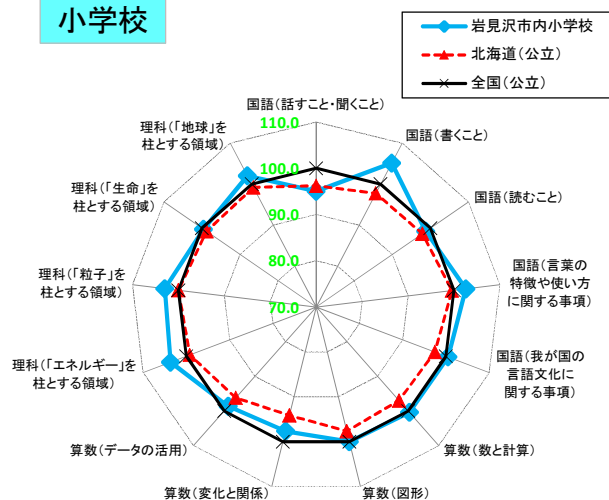
■岩見沢市内の状況及び学力向上策（小学校数：14校、児童数：539人）（中学校数：9校、生徒数：533人）

【教科全体の状況】

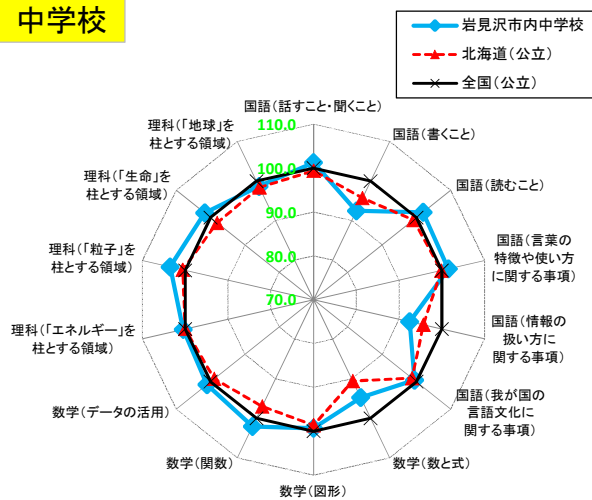
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	66	69
算数・数学	63	51
理科	64	50

小学校

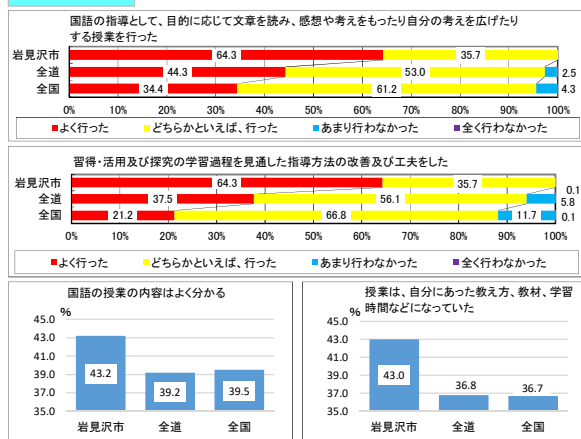


中学校



【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

多くの学校で、国語の指導として、目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり自分の考えを広げたりする授業を行ったことにより、国語の授業の内容はよく分かったと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

多くの学校で、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしたことにより、授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

多くの学校で、国語の指導として、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行ったことにより、国語の授業の内容はよく分かったと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

多くの学校で、数学の指導として、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫したことにより、数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【岩見沢市の学力向上策】

- ◎ 子どもが学びの主体となり、子どもの声が響き合う授業の展開
- ◎ 学びの連続性を踏まえた、中学校区別の定期的な研修会の開催
- ◎ 市立教育研究所の情報教育研究部会員を講師とした、1人1台端末の効果的な活用・促進を図る研修会の実施

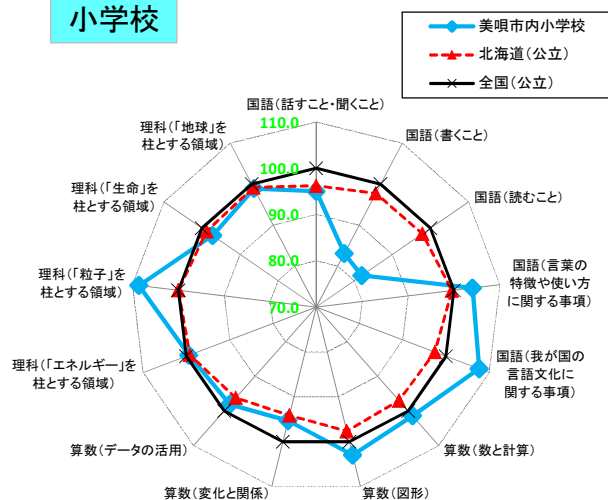
■美唄市内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:93人）（中学校数:2校、生徒数:110人）

【教科全体の状況】

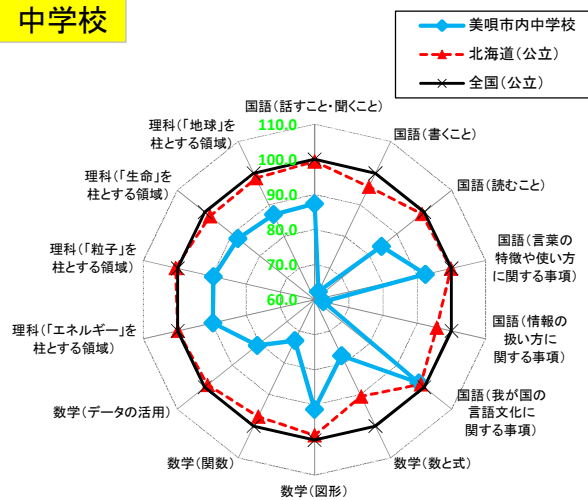
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	62	63
算数・数学	64	41
理科	64	44

小学校

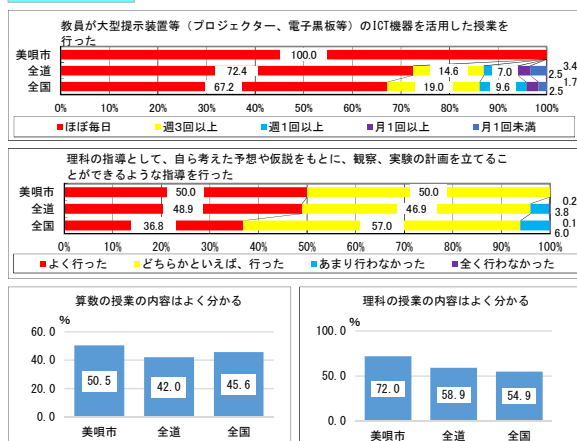


中学校



【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

教員が大型提示装置等（プロジェクター、電子黒板等）のICT機器を活用した授業を積極的に行ったことにより、算数の授業の内容はよく分かると回答した児童が全国及び全道を上回ったと考えられる。

理科の指導において、自ら考えた予想や仮説をもとに、観察、実験の計画を立てることができるよう指導を行ったことにより、理科の授業の内容はよく分かると回答した児童が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

ICT機器の積極的な活用とともに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫により、学習した内容について、分かった点やよく分らなかった点を見直し、次の学習につなげることができた生徒が全国及び全道を上回ったと考えられる。

数学の指導において、公式やきまりなどを指導する際に、生徒がその根拠を理解できるように工夫したことにより、数学の授業の内容はよく分かると回答した生徒が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【美唄市の学力向上策】

- ◎ 小・中学校の管理職と教員で構成する「学力向上プロジェクトチーム」による「確かな学力育成プラン」の作成と活用
- ◎ 各中学校区による、学習規律や授業スタイルを整えた学び方の徹底と家庭学習強化週間の設定における家庭と連携した取組の充実
- ◎ 1人1台端末を効果的に活用した授業づくりに係る研修会の実施

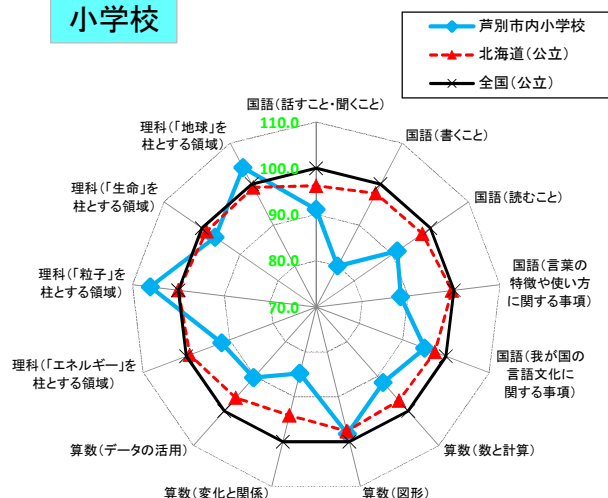
■ 芦別市内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:58人）（中学校数:2校、生徒数:46人）

【教科全体の状況】

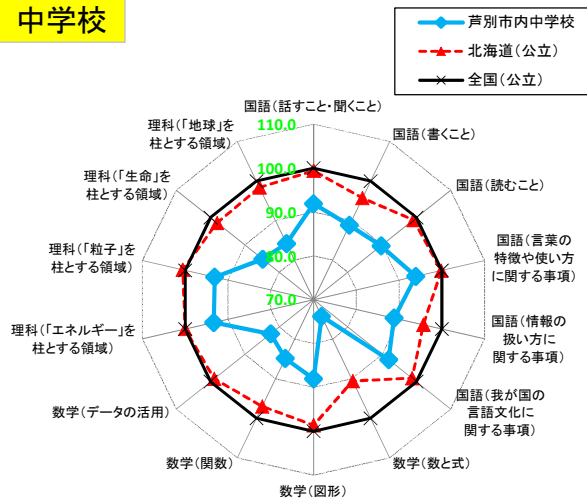
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	59	64
算数・数学	58	41
理科	63	44

小学校

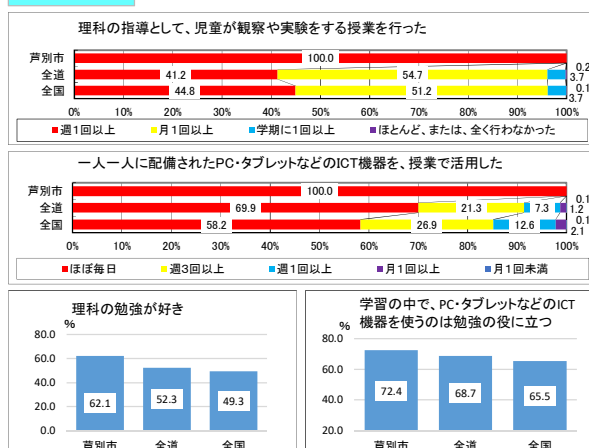


中学校

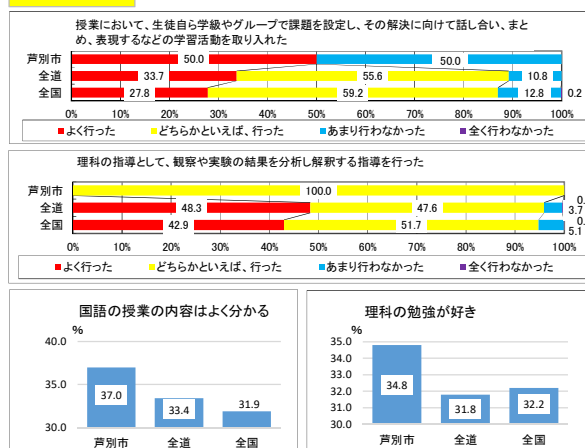


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

全ての学校で、理科の指導として、児童が観察や実験をする授業を行ったことにより、理科の勉強が好きと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

全ての学校で、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でほぼ毎日活用したことにより、学習の中で、PC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

多くの学校で、授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことにより、国語の授業の内容はよく分かると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

全ての学校で、理科の指導として、観察や実験の結果を分析し解釈する指導を行ったことにより、理科の勉強が好きと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【芦別市の学力向上策】

- ◎ 道教委指定事業「学校力向上に関する総合実践事業」における包括的な学校改善の推進
- ◎ 小中共通した「芦別スタイル」による授業改善の推進
- ◎ ICT環境を最大限活用し、個に応じた授業づくりの推進

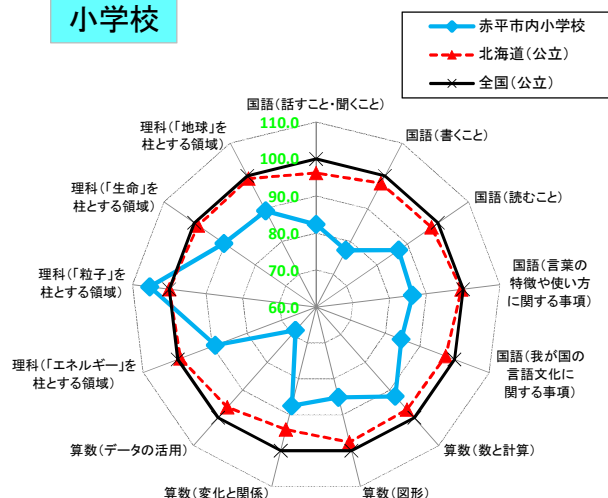
■赤平市内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:44人）（中学校数:1校、生徒数:51人）

【教科全体の状況】

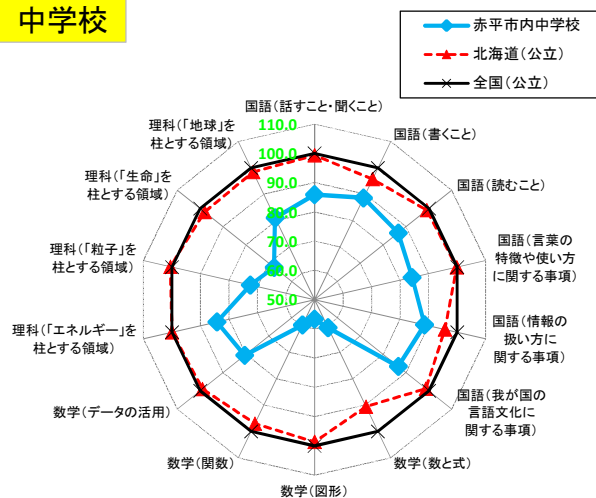
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	56	60
算数・数学	54	33
理科	59	38

小学校



中学校

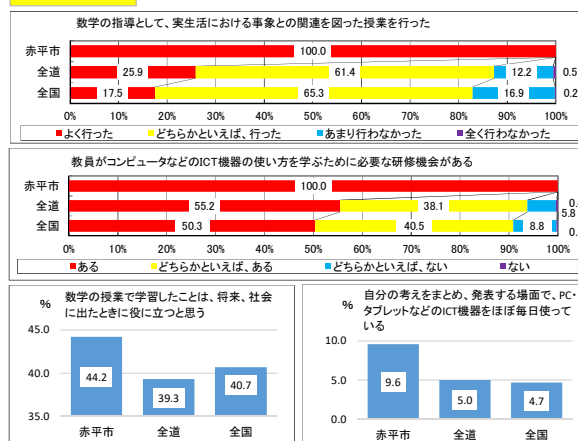


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことにより、授業では、自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行ったと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

理科の指導として、児童が観察や実験をする授業を行ったことにより、理科の授業の内容はよく分かると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

数学の指導として、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会があることにより、授業での活用が図られ、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使っていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【赤平市の学力向上策】

- ◎ めざす授業スタイルの共有と効果的な授業展開の実施率向上
- ◎ 望ましい家庭学習の例示と家庭学習時間の実態把握による家庭学習への取組の充実
- ◎ 漢検・英検の奨励による学習意欲の喚起と公設塾の継続

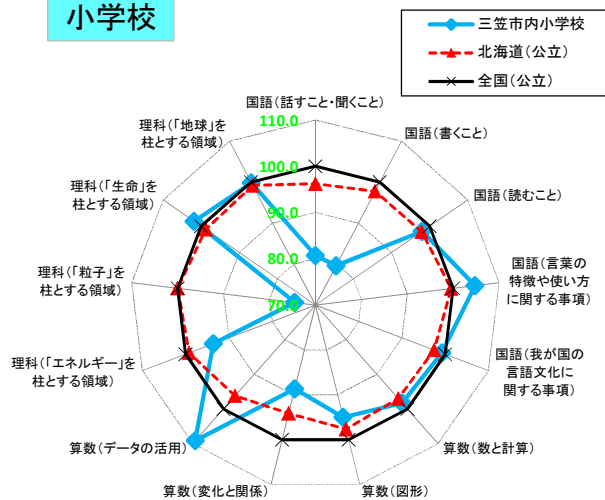
■三笠市内の状況及び学力向上策（小学校数：2校、児童数：44人）（中学校数：2校、生徒数：32人）

【教科全体の状況】

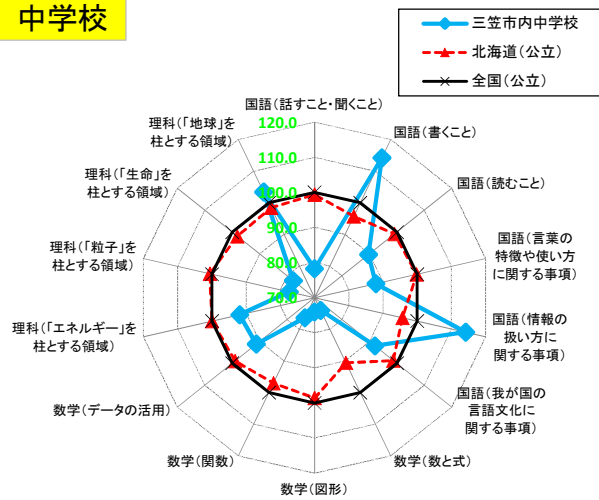
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	63	62
算数・数学	61	40
理科	58	43

小学校

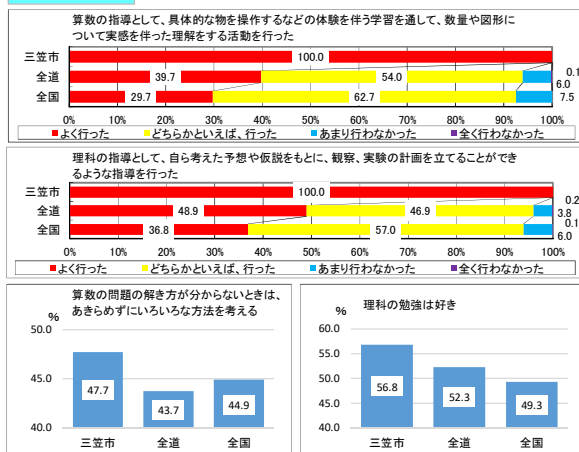


中学校

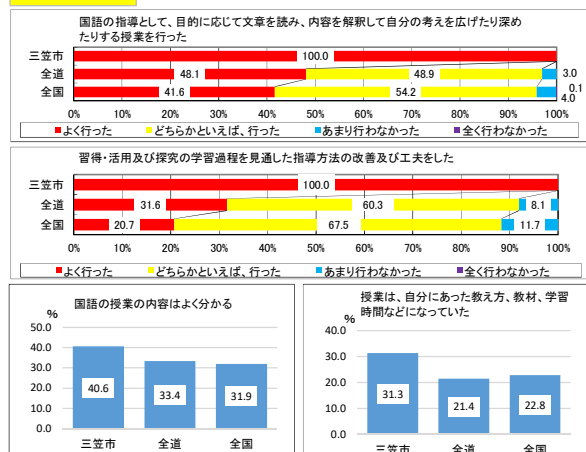


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

全ての学校で、算数の指導として、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を持った理解をする活動を行ったことにより、算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

全ての学校で、理科の指導として、自ら考えた予想や仮説をもとに、観察、実験の計画を立てることができるよう指導を行ったことにより、理科の勉強が好きと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

全ての学校で、国語の指導として、目的に応じて文章を読み、内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりする授業を行ったことにより、国語の授業の内容はよく分かるという回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

全ての学校で、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしたことにより、授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたという回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【三笠市の学力向上策】

- ◎ 学力向上を目指し、退職教員や私塾講師を活用した「学力向上未来塾推進事業」の実施
- ◎ 児童生徒の思考力を高める授業づくり「三笠市授業スタイル」に基づき、中学校区で共通した目指す子ども像を設定
- ◎ 小中合同研修会における1人1台端末を活用した授業づくりに係る研修の実施

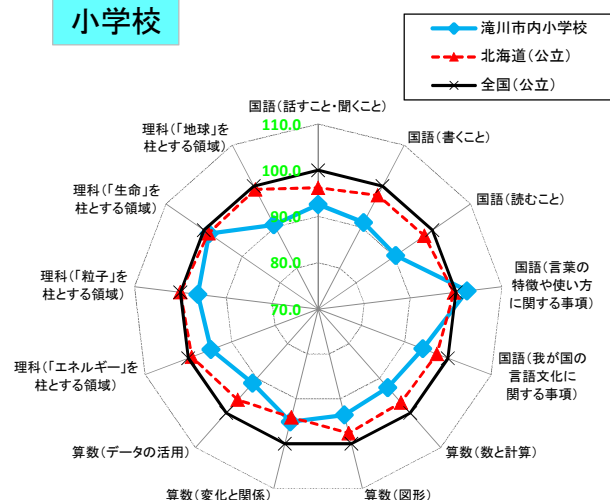
■ 滝川市内の状況及び学力向上策 （小学校数:6校、児童数:248人）（中学校数:3校、生徒数:249人）

【教科全体の状況】

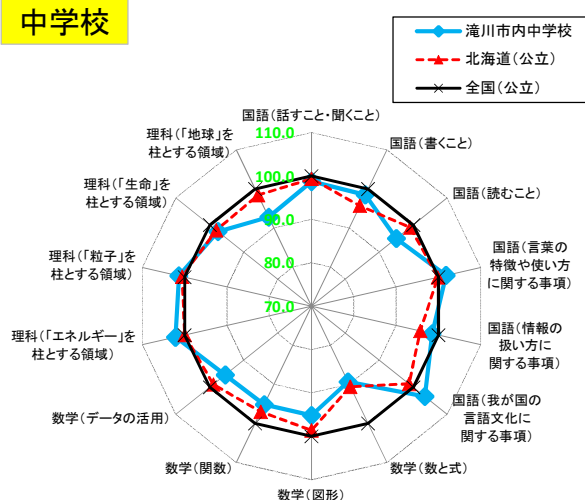
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	63	70
算数・数学	59	48
理科	61	49

小学校

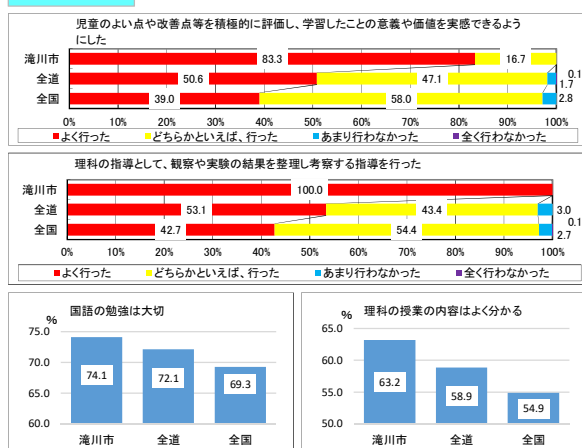


中学校

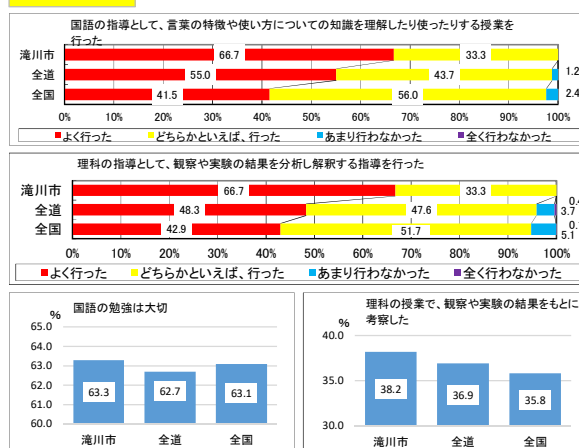


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

多くの学校で、児童のよい点や改善点を積極的に評価し、学習したことの意味や価値を実感できるようにしたことにより、国語の勉強は大切と回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

全ての学校で、理科の指導として、観察や実験の結果を整理し考察する指導を行ったことにより、理科の授業の内容はよく分かると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

多くの学校で、国語の指導として、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行ったことにより、国語の勉強は大切と回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

多くの学校で、理科の指導として、観察や実験の結果を分析し解釈する指導を行ったことにより、理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察したと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【滝川市の学力向上策】

- ◎ 「学びサポーター」の戦略的配置による少人数指導体制の積極的な推進
- ◎ 家庭学習の手引による保護者と連携した家庭における予習や復習の習慣化に向けた取組の推進
- ◎ 道教委指定事業「授業改善推進チーム活用事業」を活用した学校間の取組の発信による積極的な授業改善の推進

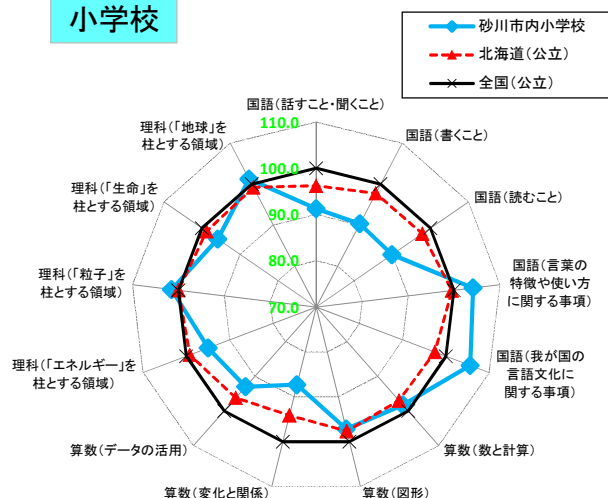
■砂川市内の状況及び学力向上策（小学校数:5校、児童数:96人）（中学校数:2校、生徒数:107人）

【教科全体の状況】

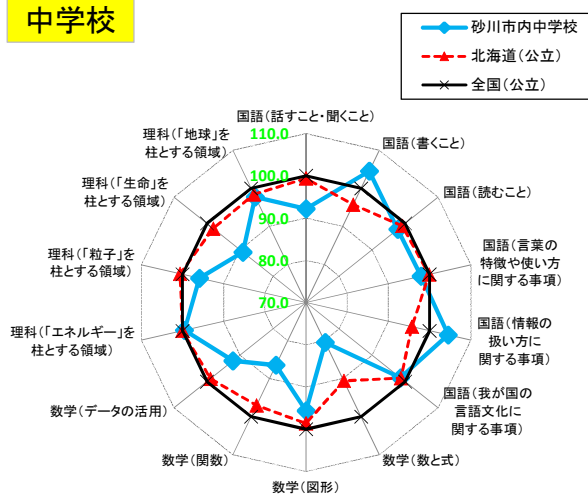
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	64	68
算数・数学	60	45
理科	62	47

小学校

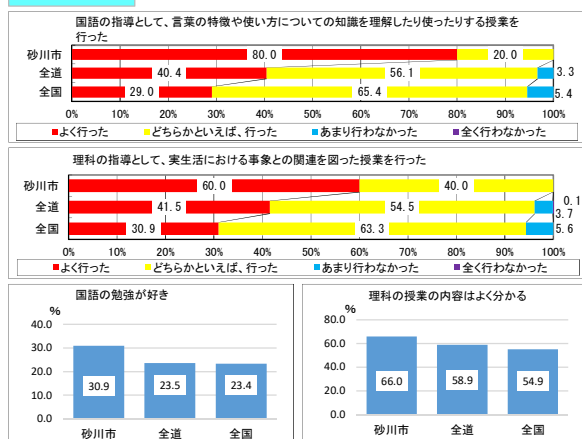


中学校



【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

多くの学校で、国語の指導として、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行ったことにより、国語の勉強が好きと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

多くの学校で、理科の指導として、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、理科の授業の内容はよく分かると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

多くの学校で、授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことにより、国語の授業の内容はよく分かると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

全ての学校で、数学の指導として、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫したことにより、数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【砂川市の学力向上策】

- ◎ 課題と振り返りがある授業改善や「ほめること」を大切に自己肯定感を高める指導の推進
- ◎ 中学校区で設定した家庭学習強化週間による、基礎・基本の確実な定着を図る家庭学習の充実
- ◎ 1人1台端末を効果的に活用した授業づくりに係るサポート体制の充実

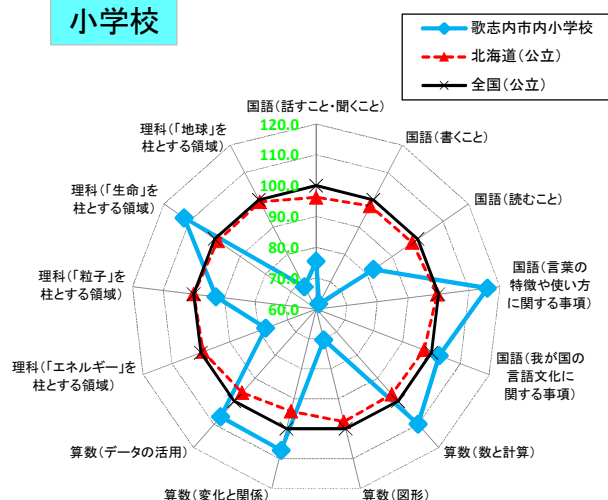
■歌志内市内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:5人）（中学校数:1校、生徒数:14人）

【教科全体の状況】

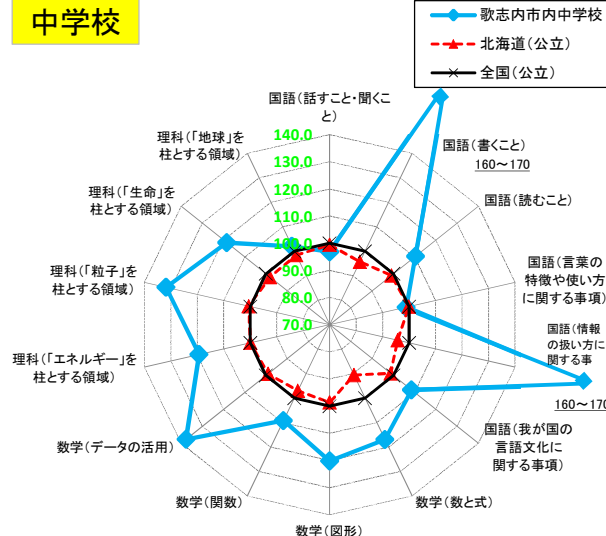
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	61	73
算数・数学	63	62
理科	56	57

小学校

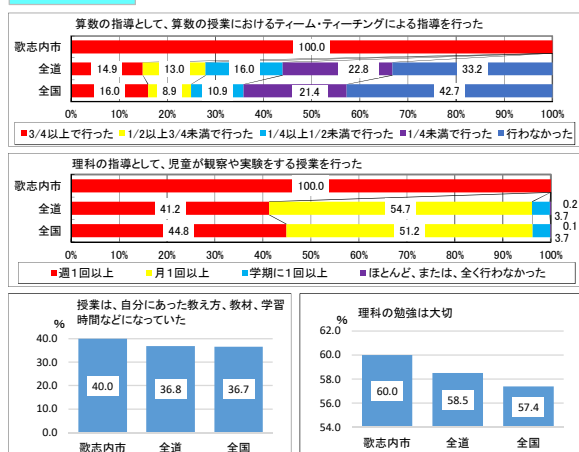


中学校

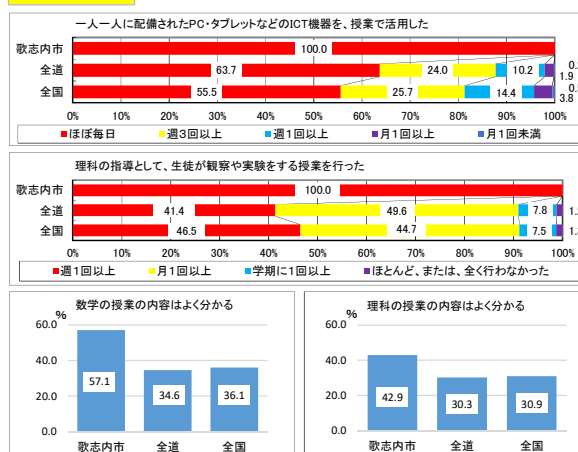


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

算数の指導として、算数の授業におけるチーム・ティーチングによる指導を行ったことにより、授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

理科の指導として、児童が観察や実験をする授業を行ったことにより、理科の勉強は大切と回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でほぼ毎日活用したことにより、数学の授業の内容はよく分ると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

理科の指導として、生徒が観察や実験をする授業を行ったことにより、理科の授業の内容はよく分ると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【歌志内市の学力向上策】

- ◎ 義務教育学校としての9年間の学びを充実させるための教育課程の編成と指導計画の作成
- ◎ 教科担任制による基礎学力向上の取組
- ◎ ICT支援員による1人1台端末を効果的に活用した授業づくりに係るサポート体制の充実

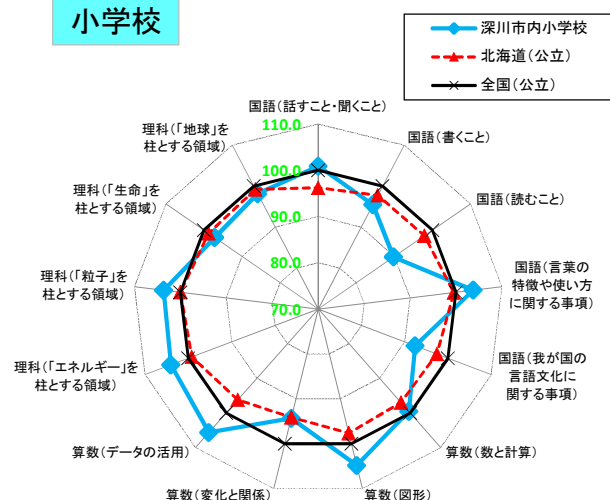
■ 深川市内の状況及び学力向上策（小学校数:6校、児童数:107人）（中学校数:2校、生徒数:113人）

【教科全体の状況】

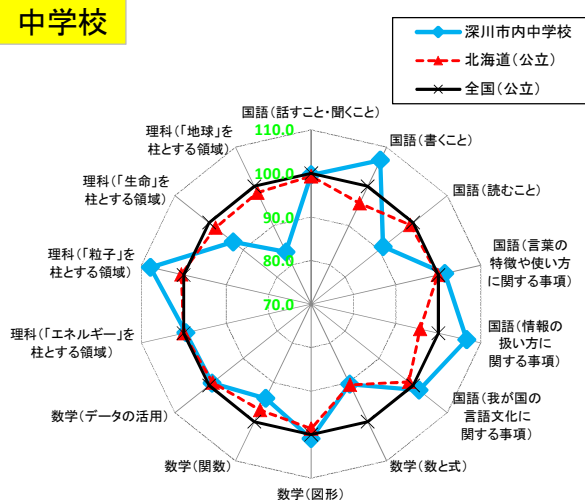
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものの（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	64	70
算数・数学	64	49
理科	63	47

小学校

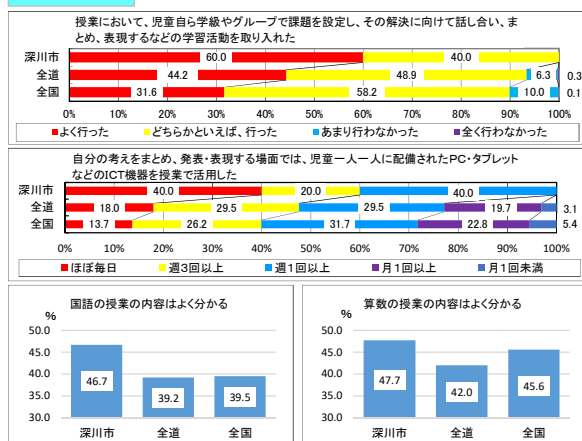


中学校

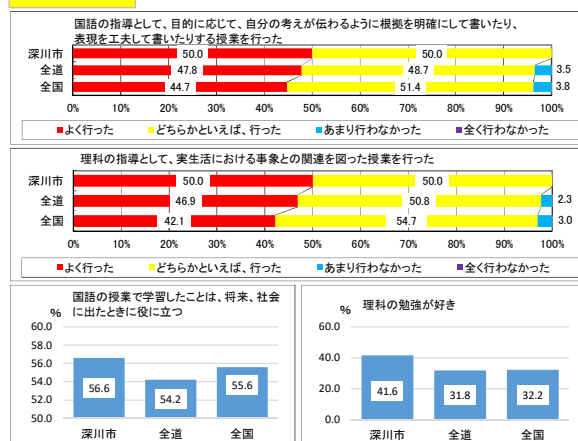


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

多くの学校で、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことにより、国語の授業の内容はよく分かったと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

多くの学校で、自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を授業でほぼ毎日活用したことにより、算数の授業の内容はよく分かったと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

多くの学校で、国語の指導として、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫して書いたりする授業を行ったことにより、国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

多くの学校で、理科の指導として、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、理科の勉強が好きと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【深川市の学力向上策】

- ◎ 小・中学生を対象にした放課後や長期休業中の学習支援を行う「学習サポートプログラム」の実施
- ◎ 学び続ける教員像の具現化に資する教育振興会等を活用した研修の実施
- ◎ ICTを効果的に活用した授業改善

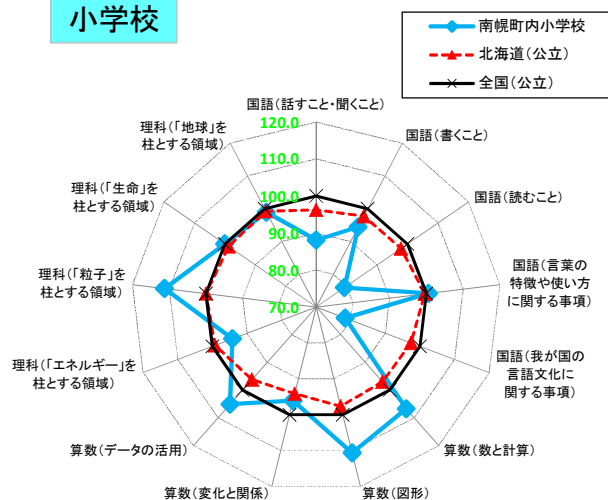
■南幌町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:36人）（中学校数:1校、生徒数:49人）

【教科全体の状況】

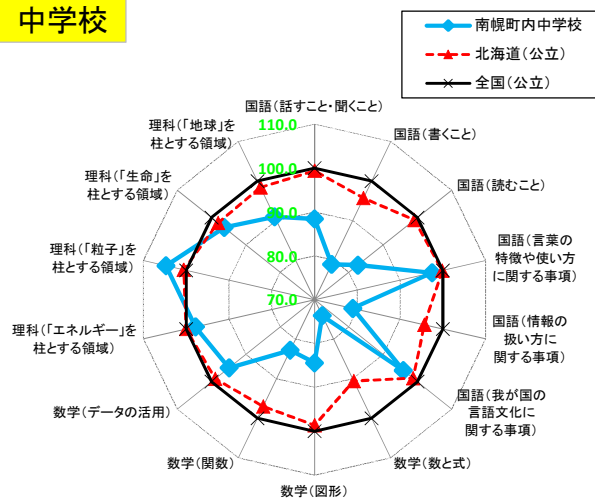
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	59	64
算数・数学	67	42
理科	64	48

小学校

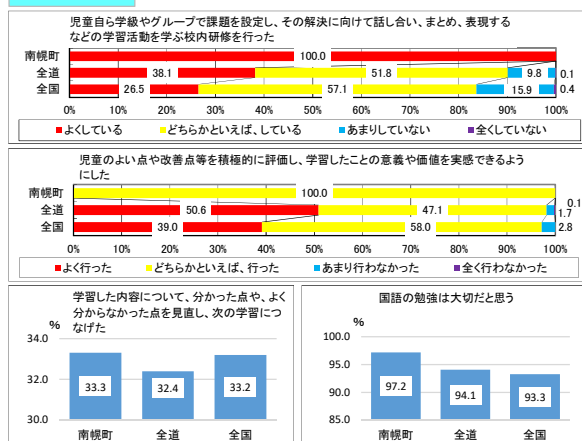


中学校

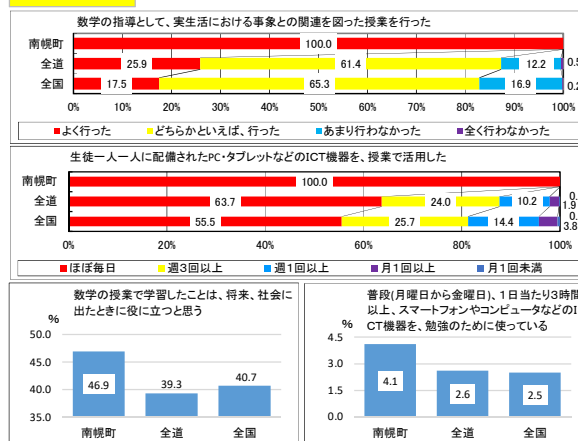


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行ったことにより、学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげたと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

児童のよい点や改善点等を積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにしたことにより、国語の勉強は大切だと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

数学の指導として、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でほぼ毎日活用したことにより、普段(月曜日から金曜日)、1日当たり3時間以上、スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を、勉強のために使っていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【南幌町の学力向上策】

- ◎ 小・中学校における基礎学力向上プラン等に基づく組織的な取組の推進
- ◎ 児童生徒の一人一人の状況に応じた指導や支援体制づくりに向けた特別支援教育学習指導員の配置
- ◎ きめ細やかな指導に向けた少人数学級のための町独自による教員加配

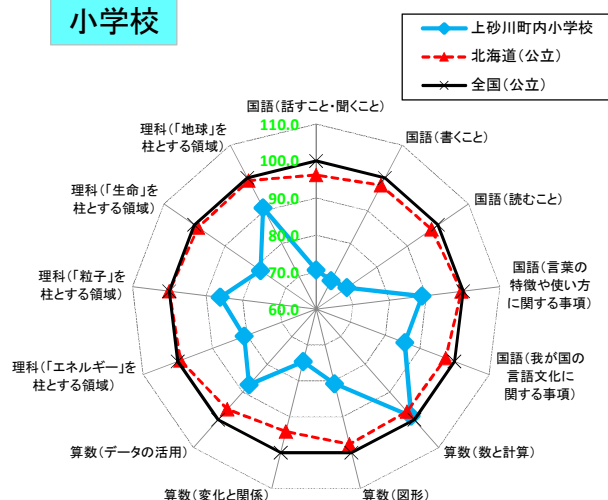
■上砂川町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:15人）（中学校数:1校、生徒数:15人）

【教科全体の状況】

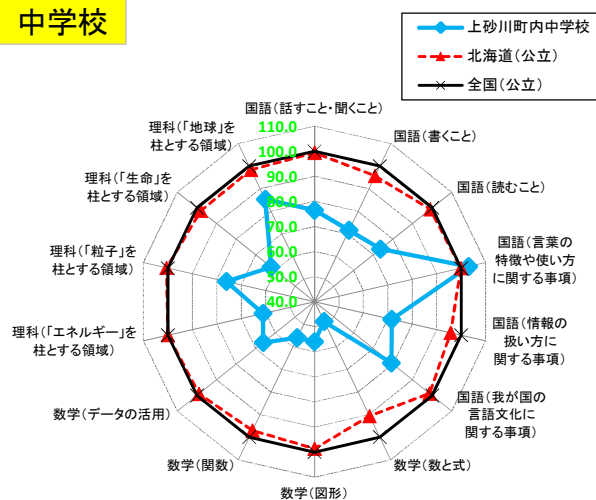
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	51	61
算数・数学	55	29
理科	52	36

小学校



中学校

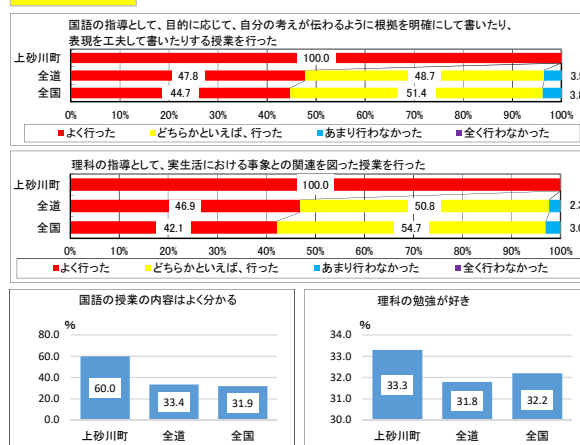


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

算数の指導として、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を持った理解をする活動を行ったことにより、算数の授業の内容はよく分かる」と回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

理科の指導として、児童が観察や実験をする授業を1クラス当たり週に1回以上行ったことにより、理科の勉強は大切だと思う」と回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

国語の指導として、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫して書いたりする授業を行ったことにより、国語の授業の内容はよく分かる」と回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

理科の指導として、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、理科の勉強が好き」と回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【上砂川町の学力向上策】

- ◎ タブレットの教材ソフト導入による分かりやすい授業づくりの促進
- ◎ 将来職業への目標意識をもたせるための「学び応援事業」の実施
- ◎ 公設塾の継続と実施方法の見直し
- ◎ 小学4～6年生の塾講師による夏休みゼミの実施
- ◎ 中学生への各種検定料助成

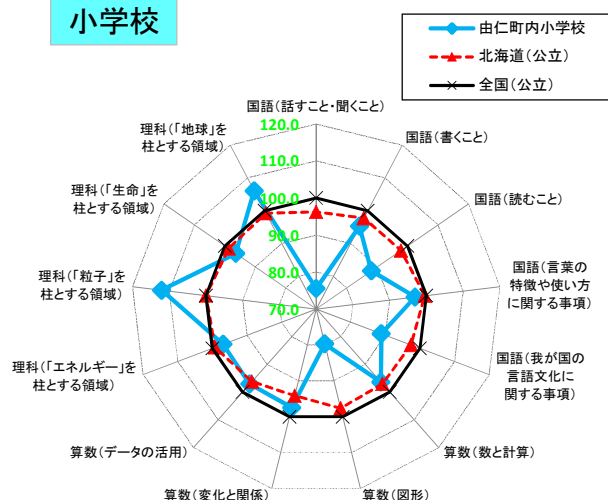
■由仁町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:26人）（中学校数:1校、生徒数:27人）

【教科全体の状況】

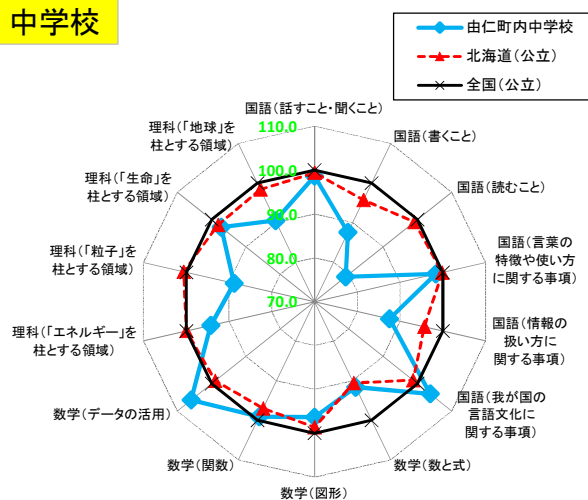
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	59	66
算数・数学	59	50
理科	66	46

小学校

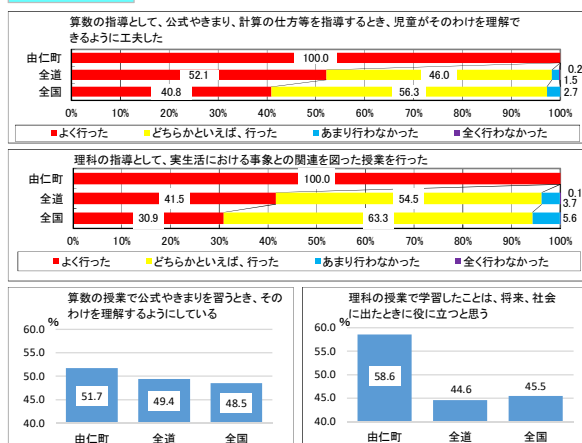


中学校

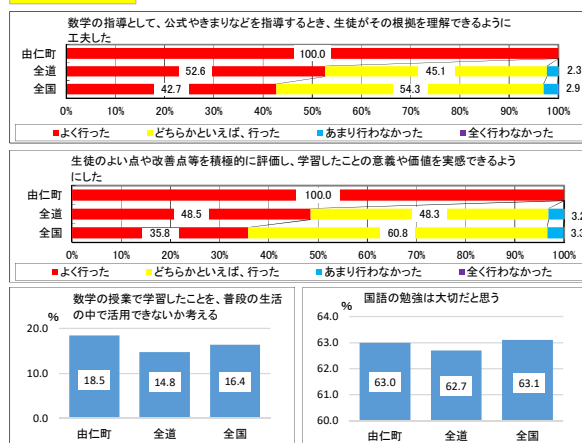


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

算数の指導として、公式やきまり、計算の仕方等を指導するとき、児童がそのわけを理解できるように工夫したことにより、算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

理科の指導として、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した児童の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

数学の指導として、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫したことにより、数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

生徒のよい点や改善点等を積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにしたことにより、国語の勉強は大切だと思うと回答した生徒の割合が全道を上回ったと考えられる。

【由仁町の学力向上策】

- ◎ 小中一貫教育の推進に向けた9年間の統一的教育課程の編成
- ◎ 放課後学習及び長期休業期間中における児童生徒への個別指導の実施
- ◎ 児童生徒1人1台端末を活用した多様な学びの実現

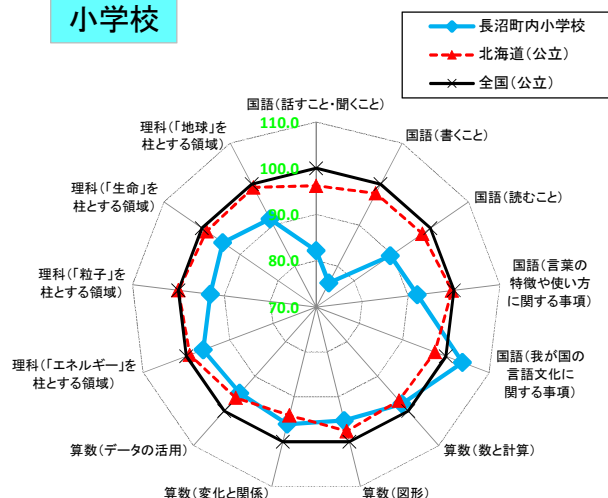
■長沼町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:68人）（中学校数:1校、生徒数:82人）

【教科全体の状況】

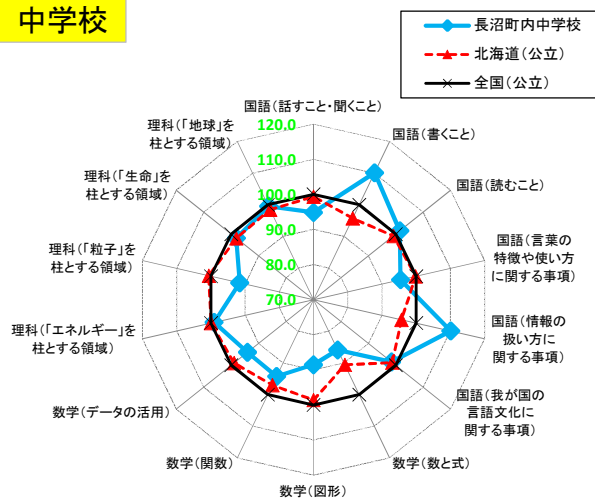
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	59	67
算数・数学	61	46
理科	60	48

小学校

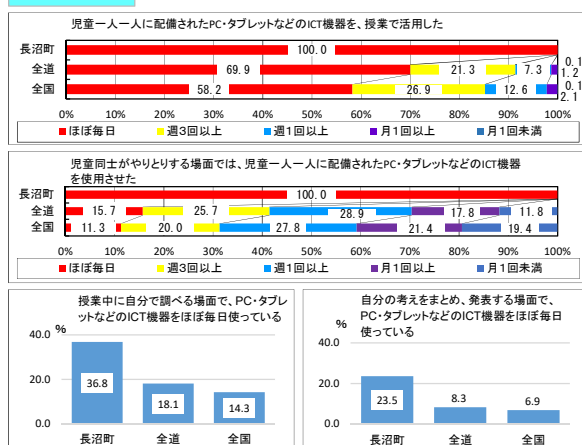


中学校

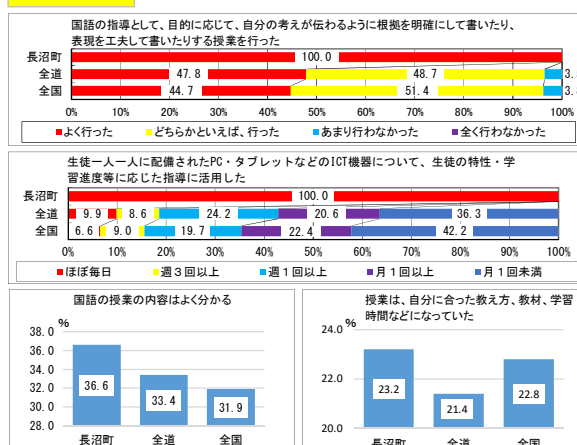


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でほぼ毎日活用したことにより、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使っていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

児童同士がやりとりする場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、ほぼ毎日使用させたことにより、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使っていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

国語の指導として、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫して書いたりする授業を行ったことにより、国語の授業の内容はよく分かったと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、生徒の特性・学習進度等に応じた指導にほぼ毎日活用したことにより、授業は、自分に合った教え方、教材、学習時間などになっていたと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【長沼町の学力向上策】

- ◎ 小中一貫教育推進会議による9年間の見通しをもった教育活動全体のカリキュラムの充実や効果的な利活用の検討など、小・中学校が協働した授業改善の推進
- ◎ 教員の指導力向上に向けた研修支援の充実
- ◎ AI教材などの学習アプリを用いたICT活用の充実(授業及び端末持ち帰りによる家庭学習での効果的利活用の推進)
- ◎ 学習支援員やALTの配置及び検定料助成などによる、子どもたちの学びを支える教育の推進

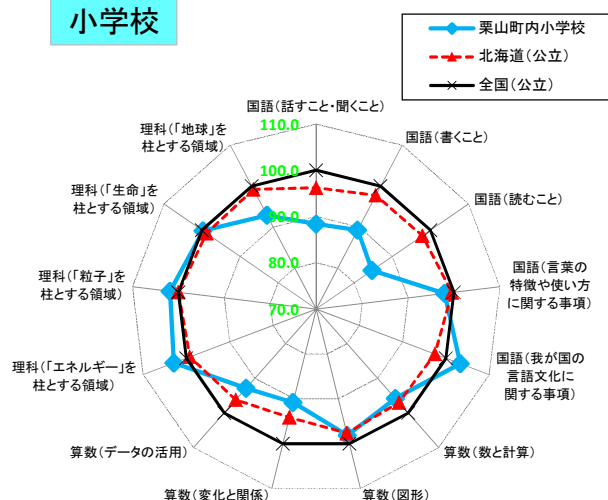
■栗山町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:82人）（中学校数:1校、生徒数:50人）

【教科全体の状況】

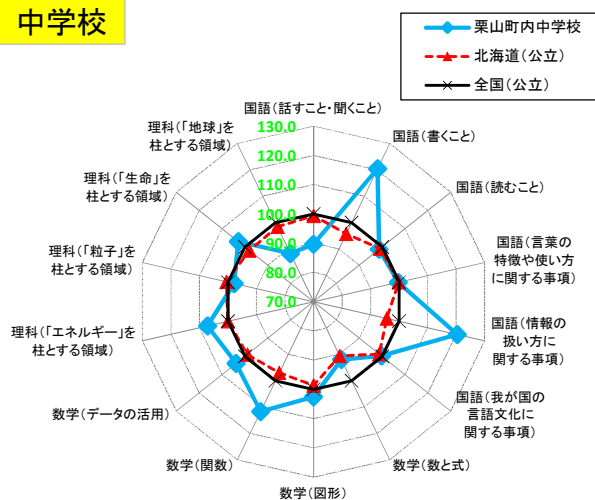
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	61	68
算数・数学	60	52
理科	63	49

小学校



中学校

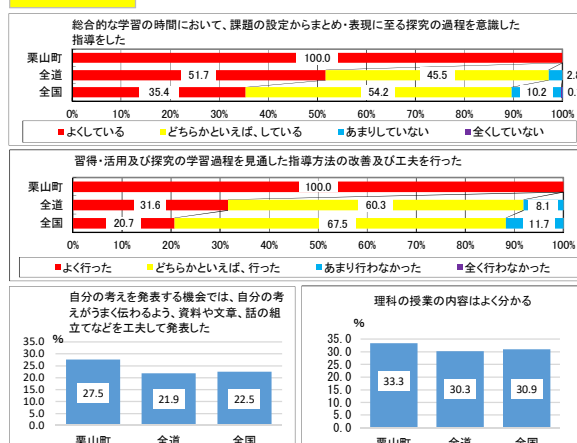


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

多くの学校で、家庭学習の取組として、学校では、児童が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かしたことにより、家で自分で計画を立てて勉強をしていると回答した児童の割合が全国を上回ったと考えられる。

多くの学校で、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことにより、理科の勉強は大切だと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしたことにより、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表したと回答する生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫を行ったことにより、理科の授業の内容はよく分かるかと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【栗山町の学力向上策】

- ◎ 授業力の向上を目的とした、学校や教育振興会で教職員が学び合う環境の整備
- ◎ 保護者や地域住民と連携したコミュニティ・スクール制度の推進
- ◎ ICT活用委員会による研修の充実

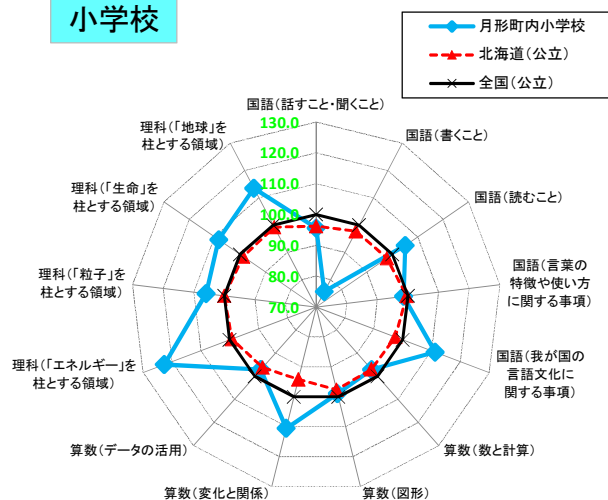
■月形町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:15人）（中学校数:1校、生徒数:12人）

【教科全体の状況】

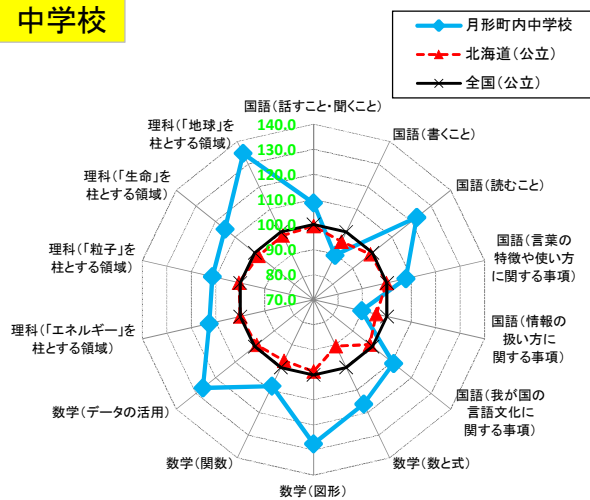
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	65	76
算数・数学	63	61
理科	72	60

小学校

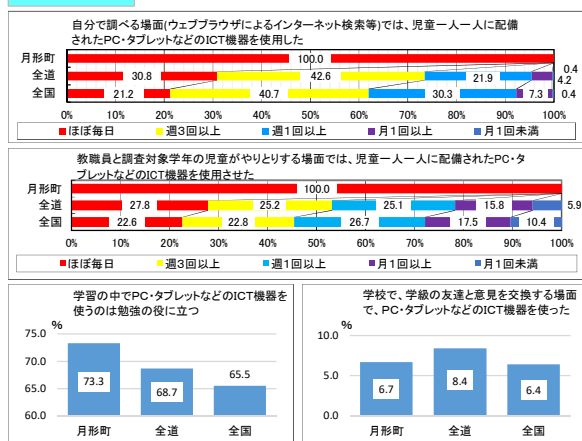


中学校

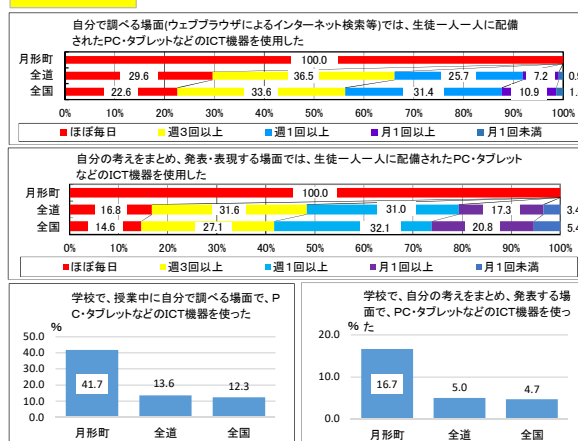


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索等）で、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用したことにより、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

教職員と調査対象学年の児童がやりとりする場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用したことにより、学校で、学級の友達と意見を交換をする場面で、PC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使ったと回答した児童の割合が全国を上回ったと考えられる。

中学校

自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索等）では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用したことにより、学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使ったと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用したことにより、学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使ったと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【月形町の学力向上策】

- ◎ 習熟の程度に応じた指導や主体的・協働的な学習を取り入れた指導の推進
- ◎ 小・中学校に時間講師を配置し、主体的な学びの実現を図る授業改善の推進
- ◎ 外部講師によるICT活用スキル向上のための研修会の実施

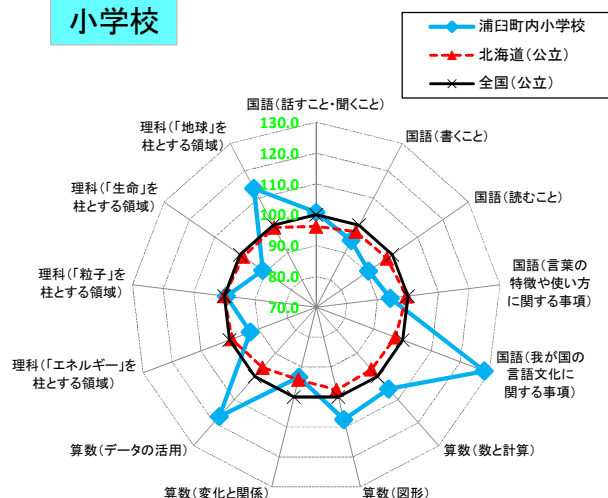
■浦臼町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:12人）（中学校数:1校、生徒数:12人）

【教科全体の状況】

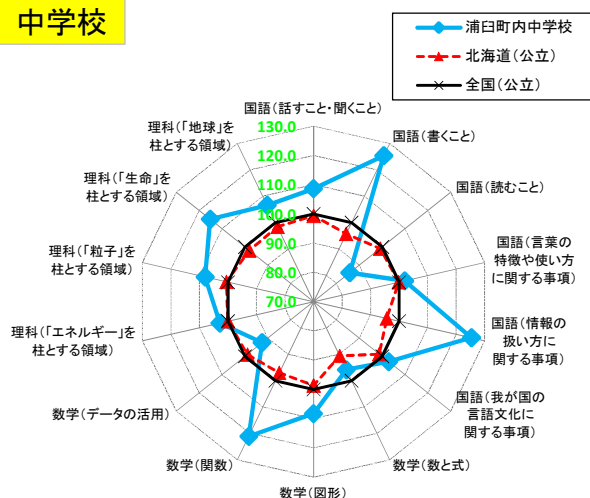
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	64	71
算数・数学	67	52
理科	62	54

小学校

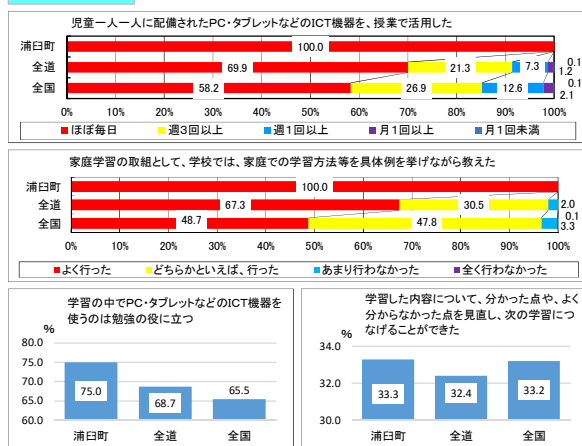


中学校



【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でほぼ毎日活用したことにより、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

家庭学習の取組として、学校では、家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えたことにより、学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができた児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

生徒の保護者に対して、生徒の家庭学習を促すような働きかけを行ったことにより、家で自分で計画を立てて勉強をしていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

理科の指導として、自ら考えた仮説をもとに、観察、実験の計画を立てることができるような指導を行ったことにより、理科の授業の内容はよく分かると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【浦臼町の学力向上策】

- ◎ 小中連携による統一した授業スタイル、学習規律、指導方法の確立
- ◎ コミュニティ・スクール導入による家庭と地域、学校が連携した学校づくりの促進
- ◎ ICT機器の効果的な活用による授業改善の促進

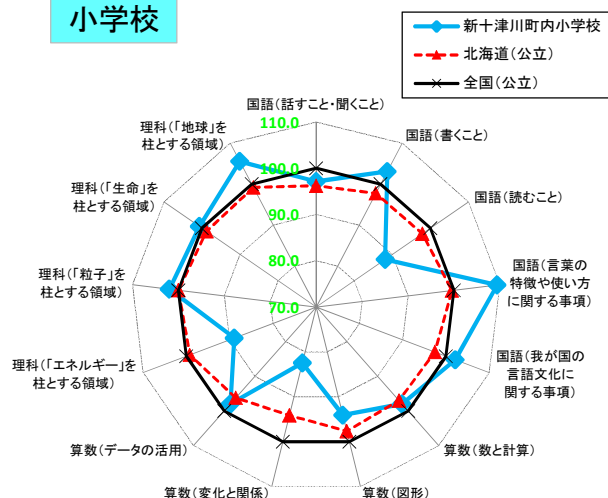
■新十津川町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:49人）（中学校数:1校、生徒数:43人）

【教科全体の状況】

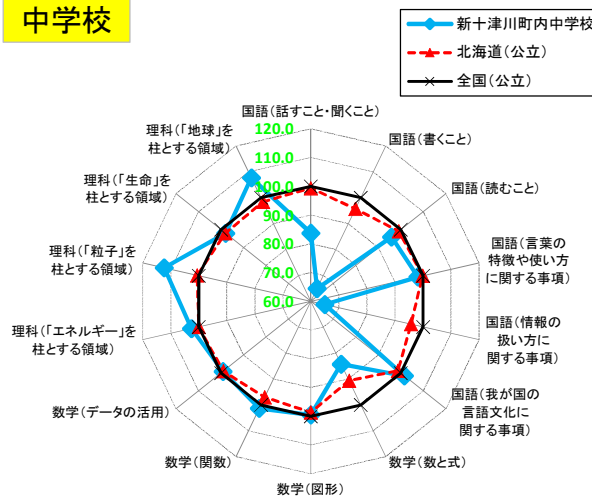
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	66	66
算数・数学	60	48
理科	63	51

小学校

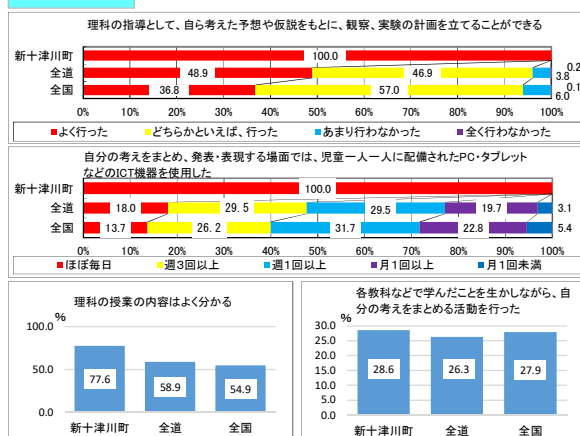


中学校



【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

理科の指導として、自ら考えた予想や仮説をもとに、観察、実験の計画を立てることができるような指導を行ったことにより、理科の授業の内容はよく分かると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使用したことにより、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行ったと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

数学の指導として、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫したことにより、数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

理科の指導として、観察や実験の結果を分析し解釈する指導を行ったことにより、理科の授業の内容はよく分かると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【新十津川町の学力向上策】

- ◎ 「学習支援サポーター」や「学力向上推進講師」を活用した「チーム・ティーチング指導」の実施
- ◎ ALTを活用した授業改善や中学校英語教師の乗り入れ授業の実施
- ◎ 放課後学習サポートの実施

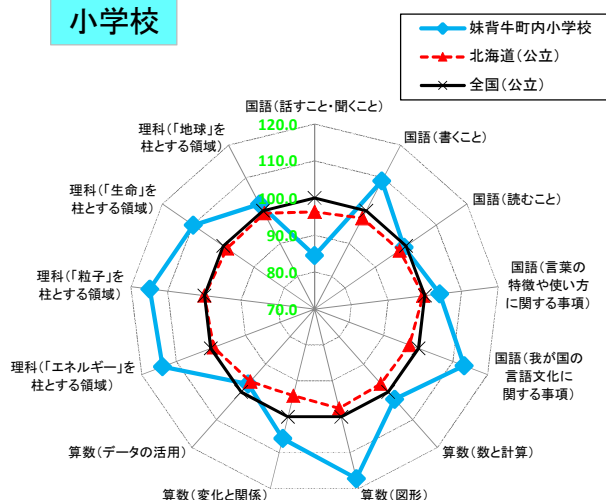
■妹背牛町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:17人）（中学校数:1校、生徒数:27人）

【教科全体の状況】

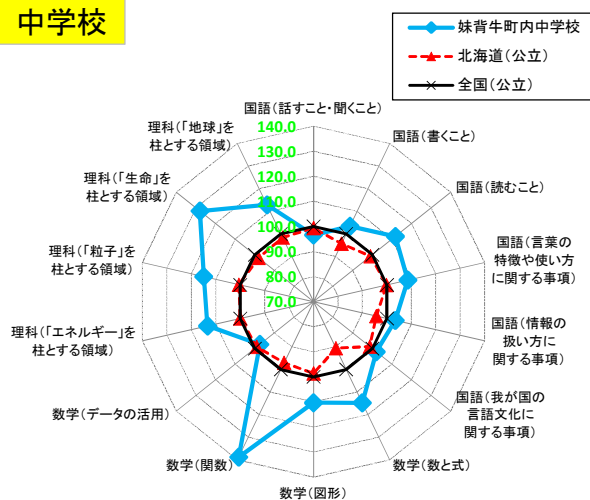
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	66	74
算数・数学	67	59
理科	71	58

小学校

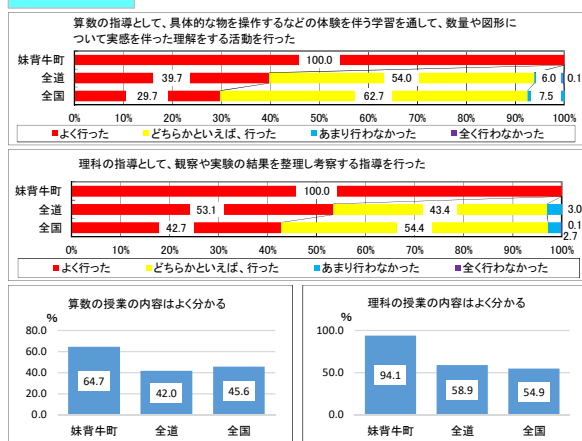


中学校

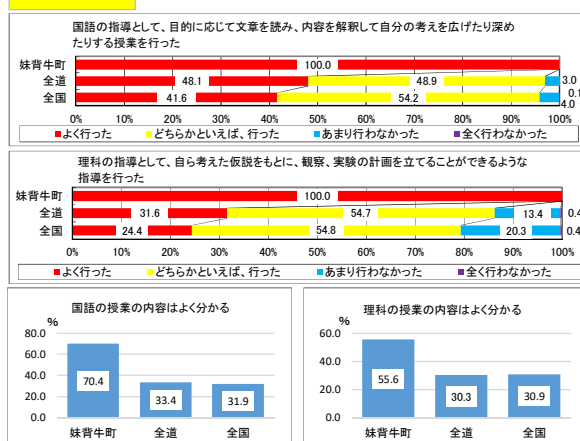


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
算数の指導として、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を持った理解をする活動を行ったことにより、算数の授業の内容はよく分かると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
理科の指導として、観察や実験の結果を整理し考察する指導を行ったことにより、理科の授業の内容はよく分かると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校
国語の指導として、目的に応じて文章を読み、内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりする授業を行ったことにより、国語の授業の内容はよく分かると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
理科の指導として、自ら考えた仮説をもとに、観察、実験の計画を立てることができるような指導を行ったことにより、理科の授業の内容はよく分かると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【妹背牛町の学力向上策】

- ◎ ティーム・ティーチングや習熟度別学習でつまづきの見られる児童生徒への指導の充実による学力の定着
- ◎ 国語科等で育てた表現力を基軸とした、主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善の推進
- ◎ 1人1台端末を効果的に活用した授業づくりの推進

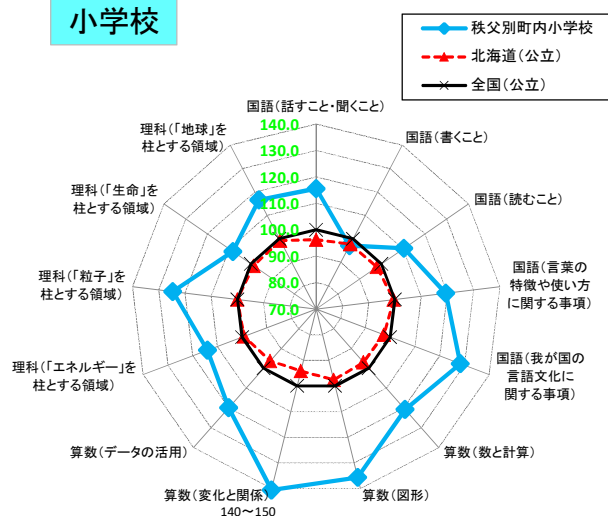
■秩父別町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:17人）（中学校数:1校、生徒数:6人）

【教科全体の状況】

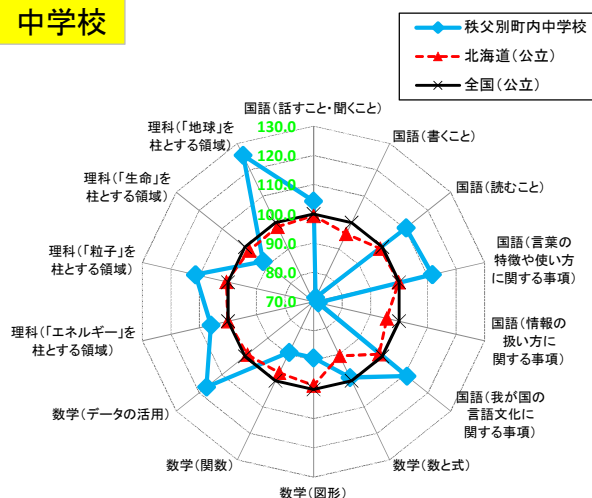
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	75	75
算数・数学	82	51
理科	74	54

小学校

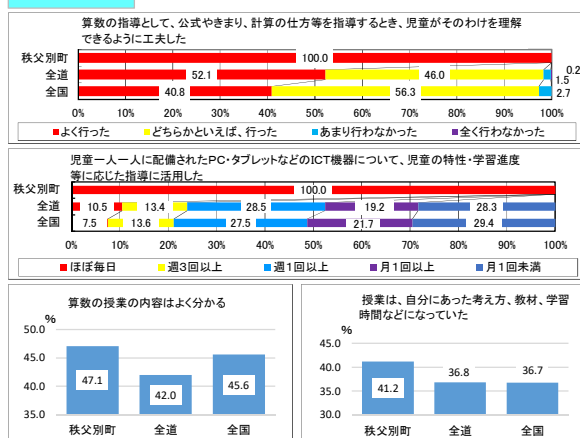


中学校

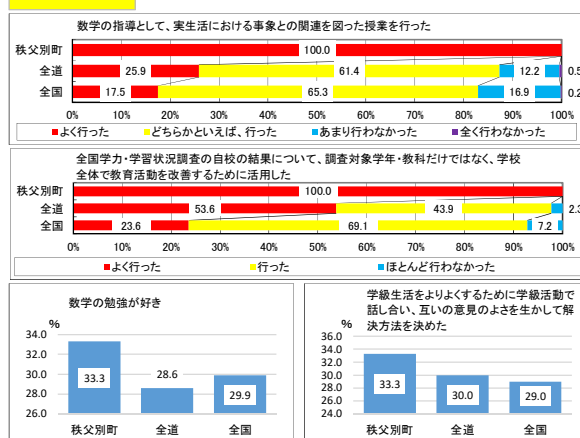


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

算数の指導として、公式やきまり、計算の仕方等を指導するとき、児童がそのわけを理解できるように工夫したことにより、算数の授業の内容はよく分かると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、児童の特性・学習進度等に応じた指導にほぼ毎日活用したことにより、授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

数学の指導として、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、数学の勉強が好きと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために活用したことにより、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めたと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【秩父別町の学力向上策】

- ◎ 長期休業を活用した「望ましい習慣」の定着と郷土愛を育む事業の実施
- ◎ 学習支援員の配置継続による個に応じた指導の充実
- ◎ 無線LANの整備によるタブレット型パソコンの活用促進

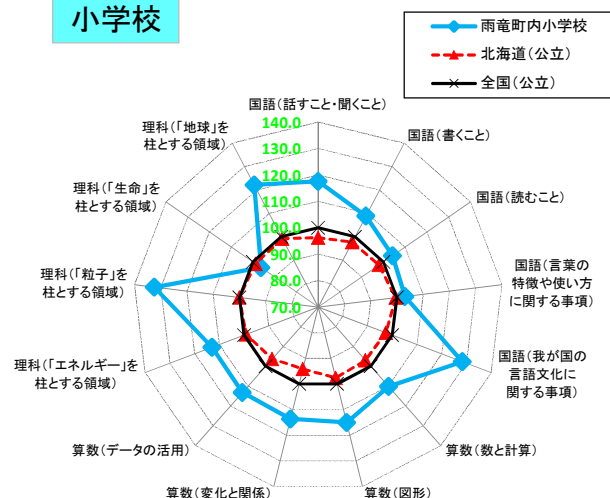
■雨竜町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:18人）（中学校数:1校、生徒数:8人）

【教科全体の状況】

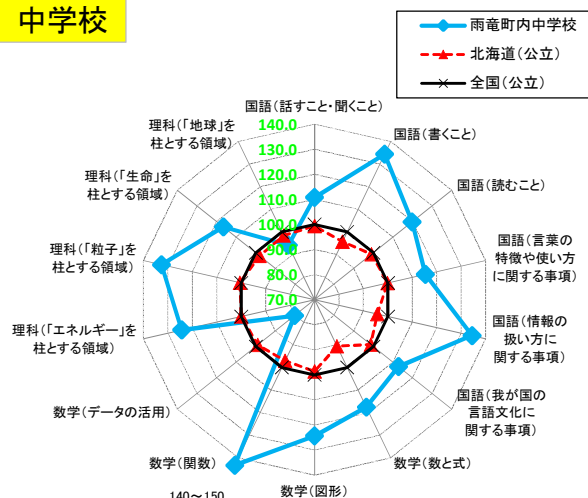
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	71	79
算数・数学	72	59
理科	73	58

小学校



中学校

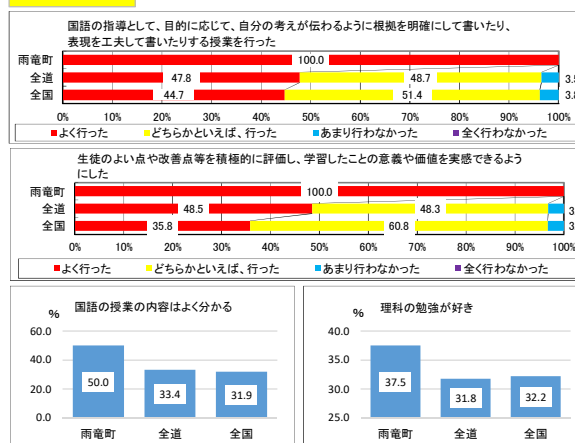


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

児童のよい点や改善点等を積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにしたことにより、国語の勉強が好きと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

算数の指導として、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を持った理解をする活動を行ったことにより、算数の授業の内容はよく分かれると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

国語の指導として、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫して書いたりする授業を行ったことにより、国語の授業の内容はよく分かれると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

生徒のよい点や改善点等を積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにしたことにより、理科の勉強が好きと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【雨竜町の学力向上策】

- ◎ 小中合同教員研修を通じた授業改善の取組と小中相互乗り入れ授業の実践
- ◎ ICT機器の活用による指導方法の工夫改善と効果的な学習活動の推進
- ◎ 小中で連動した家庭学習強調週間の設定による家庭学習の時間と質の向上

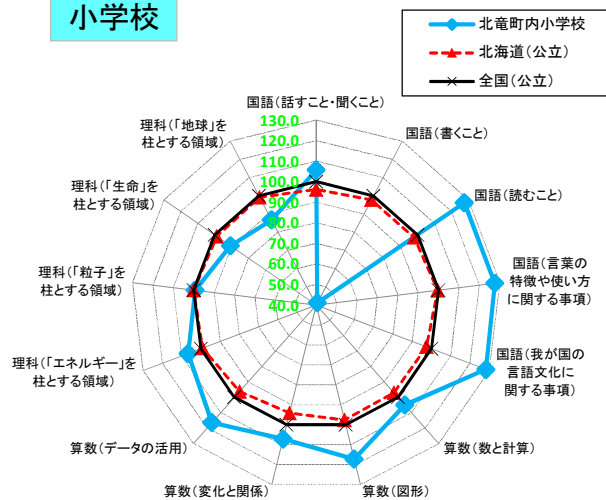
■北竜町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:5人）（中学校数:1校、生徒数:6人）

【教科全体の状況】

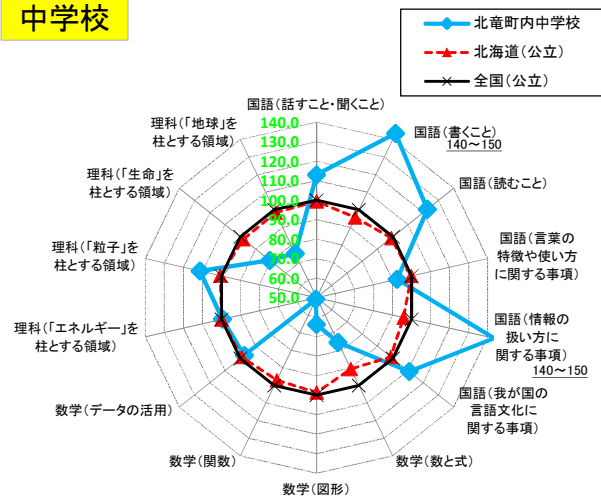
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	76	74
算数・数学	70	38
理科	60	44

小学校



中学校



【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の指導として、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして書いたり、書き表し方を工夫したりする授業を行ったことにより、授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表したと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

理科の指導として、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、理科の授業で、観察や実験の進め方や考えが間違っていないかを振り返って考えたと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

国語の指導として、目的に応じて文章を読み、内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりする授業を行ったことにより、国語の勉強は大切だと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしたことにより、理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察したと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【北竜町の学力向上策】

- ◎ 全国学力・学習状況調査の結果を活用し、学力や学習状況の評価・分析をもとにした授業改善
- ◎ 町教育振興会での小中連携した研究活動など、教職員の実践指導力を高める取組の充実
- ◎ ICT化に向けての無線LAN環境整備

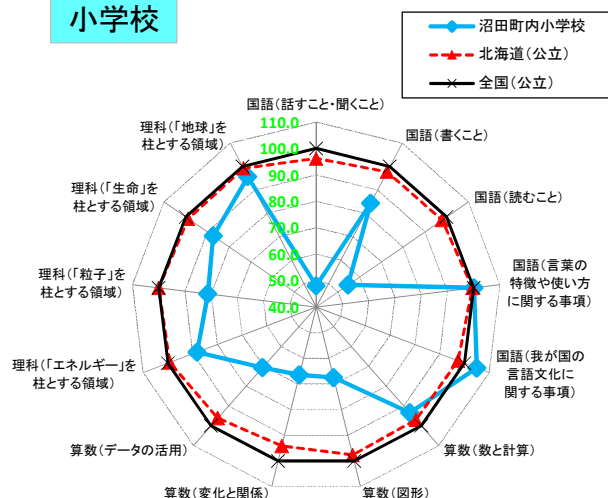
■沼田町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:11人）（中学校数:1校、生徒数:17人）

【教科全体の状況】

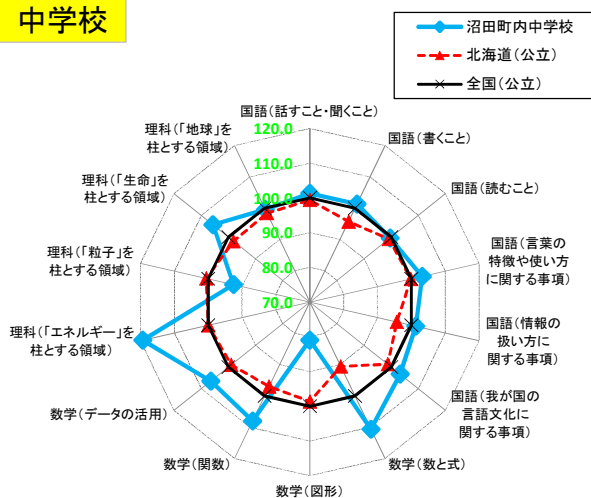
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	51	69
算数・数学	48	53
理科	55	52

小学校

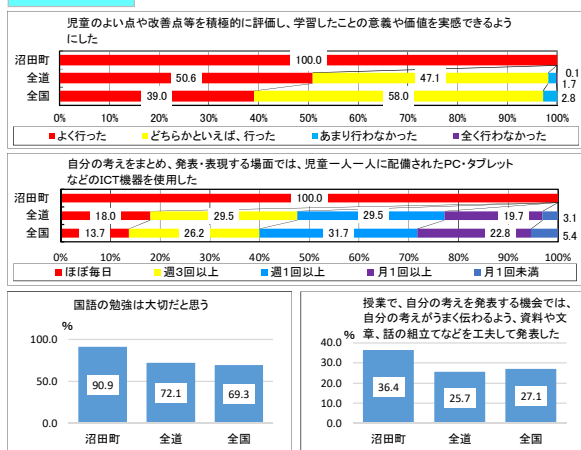


中学校



【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

児童のよい点や改善点等を積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにしたことにより、国語の勉強は大切だと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用したことにより、授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表したと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

授業において、生徒の様々な考えを引き出し、思考を深めたりするような発問や指導をしたことにより、数学の授業の内容はよく分かると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことにより、国語の授業の内容はよく分かると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【沼田町の学力向上策】

- ◎ 小中9年間を見通した教育課程の編成と体制及び教育環境の整備等による小中一貫教育の推進
- ◎ 長期休業中及び平日の「学習サポート事業」の実施
- ◎ 望ましい生活習慣・家庭学習の定着に向けた家庭学習計画表の作成及び実施